

「四旬節を迎えて」

主任司祭 吉池 好高

四旬節を迎え、2月21日の四旬節第一主日には、今年も、復活祭に向けて洗礼の準備をしている皆さんの 洗礼志願式が行われ、28日の第二主日には、フランススコ会の小高神父様をお迎えして、恒例の四旬節黙想会を行うことが出来ました。四旬節中の毎週金曜日には、これも例年のように十字架の道行きの祈りがささげられています。教会の年中行事のように行われる、このような四旬節の務めは、日常のあわただしい生活に忙殺されている私たちの心に四旬節の精神を取り戻させるためのものです。

四旬節の精神、四旬節の心とは、何よりも、イエス・キリストの十字架の死と復活の過ぎ越しの神秘によって示された私たちに対する神の愛の中心に向かって、私たちの心の向きを整え直すことにあります。私たちが洗礼を受けてカトリックの信者となることが出来たのは、神の不思議な導きと計らいによって、イエス・キリストの十字架の苦しみが、私たちへの愛によることであると受け止めることが出来たからです。イエス・キリストの十字架のお姿のうちに、私たちの全ての苦しみが投影されており、イエスは神の子として私たちの苦しみの全てを一身に背負ってくださっていると信じる事が出来たからです。そして、私たちの苦しみは、イエス・キリストの十字架の苦しみと一つに結ばれ、意味のない、出口のない苦しみに終わるのではなく、十字架のイエスの苦しみに結ばれたものとして、十字架の死を超えて復活されたイエス・キリストのいのちにも結ばれ、私たちもまたこの苦しみの彼方に復活の光を見ることが出来ると信じたからです。そして、この全てが、この世の苦しみの中であってそれがもたらす虚無と絶望の淵に浮きつ沈みつしている、私たちを救おうとしておられる神の愛であると受け止めることが出来たからです。復活祭の洗礼に向けて準備を進めている志願者の方々は、信者である私たちに、自分がかつてたどった歩みを思い起こさせてくれます。自分たちを信仰へと導いてくださった神の不思議な導きを思い起こさせてくれます。その導きの中を歩むものたち同士として、ともに喜びを分かち合いたいと思います。